

# JR東日本の技術研修に協力 川岸工業千葉第一工場で『製作工場研修』

SASST

建築鉄骨構造技術支援協会(略称・SASST、理事長Ⅱ稲田達夫・元福岡大学教授)は、東日本旅客鉄道(JR東日本)の若手技術者養成プログラム「技術アカデミー」の鉄骨工事分野の研修に今年も協力。10



溶接の実技を体験

月24日には千葉県柏市の川岸工業千葉第一工場で『製作工場研修』を実施した。SASSTでは、会員をはじめとする一般企業を対象に「人材育成支援事業」を展開しており、JR東日本の同アカデミーにも2009年以降、毎年協力し、若手技術者に鉄骨製作の基礎や管理の要点などを指導

している。今年度の製作工場研修にはJR東日本の若手技術者6人が参加。午前中に鉄骨製作の動画を視聴したの続き、SASSTの羽石良一専務理事による鉄骨の品質管理および工事監理の要点についての講義を受けた。午後からは工場内で鉄骨製作各工程を見学したほか、被覆アーク溶接とガスシールドアーク溶接の実技を体験。さらに、検査のための試験の原理およびその方法や入熱・パス間温度の管理方法について説明を受け、各種非破壊試験機器の操作も体験した。



管理のポイントなど学ぶ

なお、今年度のJR東日本の鉄骨研修は9月中旬から計6日の日程で計画されており、これまでに『構造概論』、『溶接1、2』、『HTB、柱脚』、『製作工場』の各講義・研修を実施。今月11日に神鋼ボルト本社工場(千葉県市川市)で行われる『高力ボルト』研修をもって全プログラムを終了することになる。